

厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）
（分担研究報告書）

科学的根拠に基づくがん情報の迅速な作成と提供のための体制整備のあり方に関する研究
～がん診療連携拠点病院の観点から情報作成・提供に求められること～

研究分担者 藤 也寸志 国立病院機構九州がんセンター 院長

研究要旨

今年度は、国立がん研究センターがん対策情報センター（NCC-CIS）が提供するがん情報サービスに関して、がん診療連携拠点病院の観点から、その情報作成・提供に求められることを明らかにすることを目的とした。NCC-CISによるがん情報サービスに関して、がん情報編集委員会およびその前段階であるがん情報企画委員会に、がん診療連携拠点病院の管理者としての立場から参画し、がん診療連携拠点病院の立場から、効果的な情報発信のあり方を検討した。その結果、がん情報サービスのコンテンツ作成・編集過程の問題点に関して、がん診療連携拠点病院においてがん相談支援センター長を経験した者として、さらに現在の管理者としていくつかの提案を行った。特に、国民やがん患者・家族だけでなく、がん相談員を含むがん医療者にとっても必要かつ十分な情報を提供するためには、がん情報サービスだけで完結するのではなく、関連学会等とのコラボレーションによる詳細度の異なるコンテンツの相互リンクなどを模索することも効果的ではないかと考えられた。

A. 研究目的

国立がん研究センターがん対策情報センター（NCC-CIS）が提供するがん情報サービスに関して、がん診療連携拠点病院の観点から、その情報作成・提供に求められることを明らかにする。

B. 研究方法

1. NCC-CISによるがん情報サービスに関して、がん情報編集委員会およびその前段階であるがん情報企画委員会に、がん診療連携拠点病院においてがん相談支援センター長を経験した者として、さらに現在の施設管理者（院長）としての立場から参画し、実際の作業工程に関与する。
2. その過程を通じて、がん情報サービスのコンテンツ作成の運用過程や問題点を理解し、がん診療連携拠点病院の立場から、効果的な情報発信のあり方を検討する。

（倫理面への配慮）

本研究における情報の分析・調査については、原則として匿名化したデータを扱うため、個人情報保護上は特に問題は発生しないと考えられる。

C. 研究結果

1. がん情報サービスのコンテンツ計画・作成のためのがん情報編集委員会に外部委員として参加し、実際のコンテンツの修正や査読に継続的に

協力した。

2. さらに、編集委員会の前段階であるがん情報企画委員会にも外部委員として参加することで、コンテンツ編集のあり方や枠組みなどへの提案を継続的に行った。
3. がん情報サービスのコンテンツ作成・編集過程の問題点に関して、がん診療連携拠点病院においてがん相談支援センター長を経験した者として、さらに現在の管理者として以下の提案を行った。
 - ・がん相談支援センターのがん相談員にとって、急速な発展を伴う現代のがん医療について、タイムリーな情報の提供や更新が求められること
 - ・国民に理解しやすいコンテンツを提供することは重要であるが、一方で医療者への情報提供として十分であるかどうかのバランスを考える必要があること
 - ・そのバランスを考える際には、がん情報サービスだけで完結するのではなく、ガイドラインを作成している関連学会等との連携を模索する必要があること

D. 考察

NCC-CISによるがん情報サービスは、そのアクセス数からみても、国内で最も重要ながん情報発信コンテンツであることは明白である。しかしながら、そのコンテンツ数は膨大であり、一方でがん医療の急

速な発展をキャッチアップすることは容易ではない。更新されないコンテンツは、むしろ害を及ぼす可能性さえある。実際のがん患者・家族へのタイムリーかつ正確な情報提供者としてのがん相談員の役割は重要である。その意味で、がん診療連携拠点病院が求めるがん情報は何かを常に念頭においてコンテンツを提供することも重要であろう。その際に、国民やがん患者・家族が理解できる内容であることが大前提であるものの、がん医療者側にとって十分な内容になっているかの検討が必要だと考える。例えば、昨年度に本研究班で行った食道がんのコンテンツに関する日本食道学会とのコラボレーションは、今後の過不足ないがん情報提供のモデルケースになるのではないかと期待される (Toh et al. Creation and provision of a question and answer resource for esophageal cancer based on medical professionals' reports of patients' and families' views and preferences. *Esophagus* 2021;18:872-879.)。すなわち、国民やがん患者・家族に理解できる平易な内容のがん情報サービスのコンテンツと、食道学会がホームページに掲載している食道がんの一般向けのコンテンツ (がん情報サービスよりかなり専門的な内容も含む) が、相互にリンクを張ることで、平易な内容⇒より詳細な内容、詳細な内容⇒より平易な内容へとシフトできるシステムである。今後、がん情報サービスだけで完結するのではなく、関連学会等とのコラボレーションを模索することが、国民やがん患者・家族へのがん情報の提供のベースになる可能性があると考えられる。

E. 結論

がん情報サービスのコンテンツ計画・作成にがん診療連携拠点病院の立場から参加し、その作成過程を理解し、国民やがん患者・家族とがん相談員を中心とする医療者双方の満足度を高めるためのより効率的な方法を提案した。

F. 健康危険情報

特になし

G. 研究発表

1. 論文発表

I 著書 なし

II 総説 なし

III 原著

1. Toh Y, Morita M, Yamamoto M, Nakashima Y, Sugiyama M, Uehara H, Fujimoto Y, Shin Y, Shiokawa K, Ohnishi E, Shimagaki T, Mano Y, Sugimachi K. Health-related quality of life after esophagectomy in patients with esophageal cancer. *Esophagus*. 19:47-56, 2022
2. Watanabe M, Toh Y, Ishihara R, Kono K, Matsubara H, Murakami K, Muro K, Numasaki H, Oyama T, Ozawa S, Saeki H, Tanaka K, Tsushima T, Ueno M, Uno T, Yoshio T, Usune S, Takahashi A, Miyata H. Comprehensive registry of esophageal cancer in Japan, 2014. *Esophagus*. 19:1-26, 2022
3. Nakanoko T, Morita M, Nakashima Y, Ota M, Ikebe M, Yamamoto M, Booka E, Takeuchi H, Kitagawa Y, Matsubara H, Doki Y, Toh Y. Nationwide survey of the follow-up practices for patients with esophageal carcinoma after radical treatment: historical changes and future perspectives in Japan. *Esophagus* 19:69-76, 2022
4. Sugiyama M, Uehara H, Shin Y, Shiokawa K, Fujimoto Y, Mano Y, Komoda M, Nakashima Y, Sugimachi K, Yamamoto M, Morita M, Toh Y. Indications for conversion hepatectomy for initially unresectable colorectal cancer with liver metastasis. *Surg Today*. 52:633-642, 2022
5. Ota M, Morita M, Ikebe M, Nakashima Y, Yamamoto M, Matsubara H, Kakeji Y, Doki Y, Toh Y. Clinicopathological features and prognosis of gastric tube cancer after esophagectomy for esophageal cancer: a nationwide study in Japan. *Esophagus* 19:384-392, 2022
6. Yamamoto M, Shimokawa M, Ohta M, Uehara H, Sugiyama M, Nakashima Y, Nakanoko T, Ikebe M, Shin Y, Shiokawa K, Morita M, Toh Y. Comparison of laparoscopic surgery with open standard surgery for advanced gastric carcinoma in a single institute: a propensity score matching analysis. *Surg Endosc*. 36:3356-3364, 2022

7. Shimagaki T, Sugimachi K, Mano Y, Onishi E, Iguchi T, Uehara H, Sugiyama M, Yamamoto M, Morita M, Toh Y. Simple systemic index associated with oxaliplatin-induced liver damage can be a novel biomarker to predict prognosis after resection of colorectal liver metastasis. *Ann Gastroenterol Surg.* 6:813-822, 2022
8. Nishijima T, Shimokawa M, Esaki T, Morita M, Toh Y, Muss HB. Comprehensive geriatric assessment: Valuation and patient preferences in older Japanese adults with cancer. *J Am Geriatr Soc.* 71:259-267, 2022
9. Uehara H, Ota M, Yamamoto M, Nakanoko T, Shin Y, Shiokawa K, Fujimoto Y, Nakashima Y, Sugiyama M, Onishi E, Shimagaki T, Mano Y, Sugimachi K, Morita M, Toh Y. Prognostic significance of preoperative nutritional assessment in elderly patients who underwent laparoscopic gastrectomy for stage I–III gastric cancer. *Anticancer Res.* 43:893-901, 2023
10. Kitagawa Y, Ishihara R, Ishikawa H, Ito Y, Oyama T, Oyama T, Kato K, Kato H, Kawakubo H, Kawachi H, Kuribayashi S, Kono K, Kojima T, Takeuchi H, Tsushima T, Toh Y, Nemoto K, Booka E, Makino T, Matsuda S, Matsubara H, Mano M, Minashi K, Miyazaki T, Muto M, Yamaji T, Yamatsuji T, and Yoshida M. Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan esophageal society: part 1. *Esophagus* 16:1-24,2023
11. Kitagawa Y, Ishihara R, Ishikawa H, Ito Y, Oyama T, Oyama T, Kato K, Kato H, Kawakubo H, Kawachi H, Kuribayashi S, Kono K, Kojima T, Takeuchi H, Tsushima T, Toh Y, Nemoto K, Booka E, Makino T, Matsuda S, Matsubara H, Mano M, Minashi K, Miyazaki T, Muto M, Yamaji T, Yamatsuji T, and Yoshida M. Esophageal cancer practice guidelines 2022 edited by the Japan esophageal society: part 2. *Esophagus* 16:25-43,2023

IV 症例報告 なし

V 学会発表 なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得 なし

2. 実用新案登録 なし

3. その他 なし